

## 第4期多摩区区民会議 第3回コミュニティ部会 議事録

|         |   |
|---------|---|
| □開催日時   | 平成25年3月11日(月) 午後6時00分～8時05分                                   |
| □会場     | 多摩区役所10階第1002会議室  |
| □参加者    | 辻野部会長、松本副部会長、大津委員、国保委員、本多委員(以上、コミュニティ部会員)<br>石橋委員(以上、自然災害部会員) |
| 事務局     | 門間課長、井川係長、奈良職員  |
| コンサルタント | 斉藤研究員、梅田研究員   |
| 傍聴者     | 1名  |

### 1 審議テーマの取組内容について

辻野部会長からコミュニティ部会検討用フローシートの「課題解決に向けた方向性(案)」の説明があり、「課題解決策」についての議論に入った。

大津委員 検討用フローシート「現状」欄にある、地域参加の機会の語句は検討したほうがよい。この内容が明確にならないと問題解決策の内容が明確にならない。たとえば地域の行事や集会への参加という意味なのか。

松本副部会長 地域の行事や集会だけでなく、趣味などの活動まで含んだ内容だと考える。

事務局 コミュニティ参加という語句でもよいかもかもしれない。

本多委員 定年退職した人に地域活動に参加してもらおうとあるが、年金支給開始が65歳のため、60歳を過ぎても働く人が多くなった。収入の問題だけでなく、高齢になっても元気に働く人が結構多くいる。いわゆる元気なシニアで自由時間がある人が、全体に少なくなっている現状がある。

松本副部会長 働く高齢者が多くなったとしても、現役のように残業するわけではないし、休日出勤やゴルフのつきあいもないから、地域でなにかやろうと思えばできるはずだと思うが、昼間働いているほかに、夜や祝日まで地域でなにかやろうというまでの気持ちの高齢者はないのか。

辻野部会長 そうなると、シニアの世代が地域に出てくる動機、きっかけはないのだろうか。今日の話では地域の活動への参加を促すには八方塞な感もあるが、地域に出たいがチャンスがないという人もいるのではないか。そういう人たちの期待をどうすればいいのか。現在やっている活動と連携すれば突破口が見つかるかもしれない。しかしながら、それではこの部会がめざすこととは開きがあるから、新たな場所づくりなどのしかけづくりが必要という話になるのか。

松本副部会長 これまで話してきた現状をとらえながらも、具体的に何をするかについて知恵を絞って行きたいと思う。

本多委員 地域活動という内容は、まちづくり協議会や区民会議のようなことを指しているのか、それとも囲碁・将棋のような趣味の活動まで含めているのか。

コンサル これまでの議論では囲碁・将棋などの趣味的な活動も含めた広い範囲の人々のふれあいを指している。フローシート「現状」の②地域参加の機会の項目はなくてもよいかもかもしれない。

辻野部会長 それでは、地域活動とは広い意味合いを示していると位置づけ、「課題解決に向けた方向性」の2つの内容については異論がないということで、①地域に出てくるしかけづくりについて、具体策について検討したい。

国保委員 人が出てくるしかけづくりとしては、なにかひとつのテーマに焦点を絞らずに、室内競技だったら囲碁・将棋・マージャン・マジックと複数の活動を用意して、また、人がくるこないはとりあえずおいておいて、定期的にやりつづけることが必要ではないか。

大津委員 人がそこに行きたい気持ちを刺激するという意味では、区民祭をどうして生田緑地に持って行ったのか、山の上では行きにくいのではないかという人がいた。昔は区役所付近でやっていた。そうすると地域でやっている囲碁や将棋も同時にやれる。

国保委員 かつての区民祭は商店街も参加した祭りの雰囲気があった。

大津委員 区民祭に周辺も参加できるようにできないだろうか。たとえば、生田緑地に向かう道のどこかに緋毛氈を敷き、いくらかお金を取ってもよいからお菓子と抹茶を提供するスペースをつくったら、そこに寄っていくと思う。区民祭の場所が生田緑地であっても途中の道沿いに、趣味のいろいろなものにふれあえて、一般受けするようなスペースを出すのもひとつのしかけかもしれない。

本多委員 7月中旬ごろに民家園通り商店会がにぎやかにパレードをやっている。そういうところに何か出すといいかもしれない。

大津委員 市民館の活動は活動メンバーが固定化していてオープンになっていない気がする。誰でも気軽にふらっと参加できる趣味の品揃えが、こんなにあるということのを並べると、アピールするかもしれない。

辻野部会長 現在行われている趣味の活動について棚卸して、時期と場所などを周知する必要があるかもしれない。

本多委員 市民館はどこで何をやっているということを一覧表にまとめて周知している。

石橋副委員長 市民館などのプログラムは会費を出すものがほとんどだから、飛び込みではなかなか入りにくい。これまでの会合で出てきた意見では、新しいしかけをつくるだけでなく、すでにある祭礼や行事を載せたイベントカレンダーをつくって、知らせてはどうかという意見があった。

国保委員 多摩区でもっとも中心となる商店街というと登戸だろうか。

松本副部会長 登戸はシャッターを閉めた商店が増える傾向があり、外からやってきた大手の飲食店が多くなってしまって、昔からの八百屋さん、魚屋さんはほとんどなくなった。外部からやってきた店は、地元商店会の活動にはあまり積極的ではない。登戸東通商店会は年に3・4回売り出しをやっていて、それにはたくさんの方がきているが、かならずしも商店街で買い物をするわけではないため、商店会は青息吐息の感じだ。人が集まってもペイしない。一方、民家園通り商店会は3~5万人くるから、活況を呈している。昔は結構店がある。区画整理や再開発が入ると、どうしてもものっぺらぼうのまちになってしまう。人は乗り降りするが飲み屋のまちになってしまって、買い物をしない。遊園もまだ少し地元の店が残っているけれど、区画整理されると店を畳むということになるだろう。

石橋副委員長 商店街という京王線稲田堤とJR稲田堤の間の商店街、府中県道から脇に入る2本の商店街、小田急線では読売ランドくらいか。

本多委員 商店街と組んで何かやっても一過性になる恐れはないか。

国保委員 一過性でもかまわないと考える。

松本副部会長 年に何回がやるのだったら、一過性でもいいのではないか。

辻野部会長 多摩の特性を生かしたしかけについてはどうだろう。多摩の緑地、3大学があること、あるいは二ヶ領用水を生かすといった面で知恵はないだろうか。

本多委員 生田緑地では区民祭、サマー・ミュージアムをやっている。それと連動することも考えられる。

松本副部長 他にも森と緑の祭りをやっていて、結構人がきている。そういうところに趣味のコーナーをつくってもよい。

石橋副委員長 それらのイベントは知っている人は知っているが知らない人も多い。それをイベントカレンダーで多くの人がわかるようにするのがひとつの方法ではないか。

国保委員 知らせることのほかに、人がやってくるしかけをとにかくやってみることが重要ではないか。70歳くらいの男性に趣味はないかと聞くと、ないという。せいぜいあっても酒だという。女性も子育てに夢中になっていて、趣味を忘れている。だから私の仕事の面でも、この現状は大変困った状態。もし、どこか飛び入りでも入れる趣味のしかけがあれば、紹介したい。

松本副部長 サラリーマンは趣味がないのか趣味だとか、仕事が趣味だという。

国保委員 それはとんでもないことで、後で大変なことになる。

大津委員 年末に稲田中学校の体育館で地域教育会議の主催で音楽フェスタをやっている。稲中、多摩高の音楽部と元気なチアリーダーチーム、明大の三弦研究会などが出てくる。よい音楽が聴けるしチアリーダーは見ても楽しいから、毎年参加者がどんどん増えている。各地域教育会議がやっている年間の行事を、イベントカレンダーに入れるのはよいかもしれない。

事務局 これまでの議論は、趣味の活動を中心にカレンダーをつくる、できれば趣味に参加できる場を用意する話を中心だが、町内会・自治会のようないわゆる日常の地域活動につながるしかけについてはどう考えればよいのか。自然災害部会との連携のような話を考えると、地べたにつながった具体策については、どうするか。

本多委員 出てきやすさを考えると、まず、ふらっと参加できる趣味がスタートだ。地べたの活動に参加するとなると、入る人もふらっととはいかず、相当覚悟が必要だと思う。

辻野部会長 趣味に引き込むならとりあえず可能性があるけれど、協働の活動に引き込むにはパワーが要る。

国保委員 4期の委員には農業関係の委員がいる。農産物、食育、健康というのは、現代人にとって大きな関心テーマだ。農業関係の委員にヒアリングして、農産物、食育、健康という切口から、なにかパワーのあるしかけがつかれないか。土の問題、肥料の問題、健康によい農産物などいろいろなしかけを考えられる。野菜の中には抗酸化物質で解毒効用を持っているものがあって、それを食べれば薬よりも効果があるものがある。

大津委員 多摩区にはのらぼう菜を発見されたすばらしい先生が菅にいる。のらぼう菜も多摩区らしい切口の候補になる。

松本副部長 農業の切口からどのようにして迫る方法があるのか。

国保委員 すぐにしかけとしてどうこうとするというわけではないが、部会で農業関係の委員にどんな野菜や果物が、どのような状況で育っているか、現場を訪ねてヒアリングし、そこから糸口を見出せないかと考えている。解毒効用を持った野菜が多摩区で生産されていれば、非常によい。

本多委員 私は畑を借りていろいろな野菜をつくっているが、トマトやナスがなっている状態を子どもたちに見せて取らせると、野菜がなっている様子をみんな知らないから喜ぶ。大人たちも今は農業に非常に関心があるから、農業については話をしやすい。人とコミュニケーションするよいきっかけになると思う。

松本副部長 私は生田緑地の畑に関わっており、子どもたちや障害のある方たちに収穫にきてもらっているが、とても喜ぶ。運営は登録している人しか関われないが、やり方を考えれば、ふれあうしかけは考えられるかもしれない。

国保委員 すぐに地域活動ということになるかどうかはまだ見えないが、可能性はあると思う。

コンサル 農業に関係する分野について、ただちに地域に出てくるしかけとして具体策を提案できるかどうかはわからないが、今後検討していく意味はあるということで、まず、白井委員へのヒアリングを予定に入れておくということだと思う。

これまでの議論のポイントを整理すると、ひとつはイベントカレンダーの作成、次に趣味に気軽に参加できる場を、区民祭や商店街などで設けられないかということ、最後に農業を切口としたしかけについて検討するということになる。

松本副部長 区民祭や商店街の中で場を設けるとなると、出店の費用がかかる。

大津委員 モノを売るとその仕入れ費用がかかる。

本多委員 それを区民会議のメンバーがやるのではなくて、いろいろな団体に働きかけるということだろう。

石橋副委員長 区民会議がそれを提言しますと言える内容になるまで、中身を詰める必要がある。

松本副部長 カレンダーはとてもよい。登戸の場合は1月に賽の神、2月に豆まきが神社であり、結構なにぎわいがある。KFJ 祭りの子ども餅つき大会、菅の薬師さんの祭り、相撲大会、獅子舞がある。生田、宿河原、中野島でもいろいろ行事があるが、あまり知られていない。それがわかれば、のぞいてみようかという気になる。

石橋副委員長 団地でもいろいろな祭り、催しをやっているかもしれない。

松本副部長 盆踊りだけでも登戸町会では4箇所で行っている。祭りも4町会から神輿が出ている。神輿もプロの担ぎ手じゃなくて、地元の人に参加してほしい。

コンサル 具体策の検討の過程では、実施主体の検討という作業が組み込まれている。どんな主体がどのように関わると成果が上がるかを検討し、可能ならば期間内に具体策の試行に着手し、その成果を評価するところまでやることもできる。

松本副部長 実施主体の中には、場合によっては区民会議委員がやることもある。

辻野部長 では、②コミュニケーション能力をはぐくむの議論に移りたい。

石橋委員 あいさつの原点としては、町会単位などでラジオ体操を再び普及しようというのはいかがでしょうか。

松本副部長 昔はラジオ体操を夏休み中ずうっとやっていたが、今は1週間くらいと短い。私の町会では、現在は老人会がラジオ体操をやっている。それ以外には老人いこいの家で週1回のいきいき体操がある。ほかに公園体操がある。

石橋副委員長 体操の時には、黙って参加して、体操をして黙って帰るのではなくて、きちんと挨拶をする。

松本副部長 体操を続けていけば必ず挨拶をする仲になっていくからよい活動なのだが、それを実施する側は大変になる。

辻野部長 やり方についてはよく検討して、提言のなかに盛り込まなければならない。

国保委員 人間が体操をすることは大変大事なことで、日ごろ歩いているから下半身は使っているが、上半身を動かすことはあまりない。体操をして上半身を動かすことは高血圧や軽い心臓病、腰痛によい。健康に直結する。その意味合いで長寿のためには体操が大変よいことを伝えたい。

本多委員 体操はよいが、私の町会は狭くて、体操をする場所がないという問題がある。道路も4mで狭い。専修大学のグラウンドを借りることになるかもしれない。

大津委員 私の町会では場所がないので神社の広場でやろうとしたところ、行政から待たされた。神社の境内には砂利が敷いてあり、それが高齢者の転倒につながりかねないため、砂利を除かないとOKがでないことになり、結局やらないことになった。場所の問題は検討しなければならない。

松本副部長 学校の校庭は野球やサッカーなど他の利用と調整すれば、大丈夫だと思う。

辻野部長 体操以外にも、ある種のあいさつ運動は必要だろう。

本多委員 学校は知らない大人に声をかけられたら、あいさつしないように指導されている。

松本委員 お母さんが怪我で入院したから、病院に連れて行ってあげるなどといって、子ども連れ去り一歩手前のケースなどが実際にあるから、学校も親も非常に神経質にならざるをえない。農家をやっている人が鎌をもってお帰りと声をかけたら、鎌をもって追いかけられたから注意せよという、不審者情報が出回ることになる。

大津委員 私たちの町会では子どもの通学時間に家の前に立ってあいさつすることを続けたら、子どもたちは割合反応してくれるようになった。通りすがりで声をかけてもだめだ。

松本副部長 その意味であいさつは場やケースを考える必要がある。どういう時にはあいさつをしようというところまで考えないと運動としては難しい。

## 2 第4期区民会議ニュース第2号について

ニュース第2号案については、以下の訂正が出た。それ以外の修正事項がある場合は14日（木）までに事務局まで連絡することになった。

○2ページ：第2部会の枠内の「参加させる工夫」「引っぱりだす」の語句は区民に行動を強いる表現になっているので、「してもらおう」などの表現に変える。

## 3 スケジュール

次回第4回部会は、下記を候補日として、部会委員に事務局が出欠を問い合わせ、出席委員が一番多い日に開催する。

### 【候補日】

- 平成25年5月14日（火）18：00～
- "     5月15日（水）     "
- "     5月16日（木）     "

以上